



編集・発行  
 日蓮宗 能勢妙見山  
 広報部  
 〒563-0132  
 大阪府豊能郡能勢町野間中  
 電話 072-739-0329  
 FAX 072-739-2883

# 盂蘭盆会施餓鬼法要

8月22日(月) 午後1時 於祥雲閣位牌堂2階ご宝前  
 お盆にあたり、ご先祖並びに有縁の靈位に塔婆供養します  
 ご希望の方は寺務所までお申し込み下さい (御志納料五千元より)

## 【8月の主な行事】

- ★写経会 14日(日) 11時
  - ★清掃の日 15日(月) 11時
  - ★月例祈願法要 15日(月) 13時
  - ☆盂蘭盆会施餓鬼法要 22日(月) 13時
  - ★鷗様月例祭 22日(月) 15時
- お盆にあたり塔婆を立ててご先祖供養します

## 【9月の行事予定】

- ☆八朔祭祈禱 4日(日) 9時～16時
- 御祈禱お申込の方には「開運八朔田之実守」授与
- ★清掃の日 15日(木) 11時
- ★月例祈願法要 15日(木) 13時
- ★鷗様月例祭 22日(木) 15時

## ●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります  
 ◎ご祈祷・ご回向等は

郵便・FAX・メールでも受け付けています

- ◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい
- 出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- 登山カード押印は休止
- 送迎車の運行は休止しています
- ◆ケーブル&リフトは水・木が定休日です(ただし、行楽シーズンなど例外あり)。詳細は能勢電鉄へお問い合わせ下さい。(Tel 072-7992-7716)

### 亡骸に触れる

服部憲厚

先日、お葬式の最後の別れの場に立ち会った。

それは、お孫さんの一人の男の子が、棺に寄り添い亡きおばあちゃんの頬に触れたときのことである。

父親が「こらこら！触ったらあかん」と制止。男の子は驚いて手を納め、しょぼりしてしまった。

参列者が棺に花を手向け故人と触れられる最後の時間であるにも関わらず、私はお坊さんとして、その子に何も声を掛けてあげられず後でモヤモヤと後悔した。

確かにお父さんの気持ちもよくわかる。亡骸に触れることになんとなく抵抗があるのは、私たち日本人の死生観をよく表しているのではないだろうか。

それは神道の「穢れ」という考え方である。日本人の清潔好きもその

影響であると思われるが、穢れとされる対象は、多岐に渡り、理に適った衛生感覚もあれば、迷信めいた差別的な習俗まで様々だ。

この「穢れ」について日蓮聖人の考えは実に先進的であることに驚かされる。

ある女性信徒が日蓮聖人に「月水（月経）のときは仏前にて読経やお題目を唱えてよいのか」と質問した。その問いに答えたのが次の『月水御書』である。

「經典には月水（月経）を嫌うという教えはどこにも見あたりません。人間の生理現象であって、生死の種を継ぐ自然の理。それが穢れだからといって尊い法華経、お題目の修行を遠ざけるべきではありません。体調に応じ、時に応じてお題目をお唱えください」とお答えになられている。

本来、仏教には穢れを嫌うという思想はない。「月経」しかり「死」を穢れとは考

えず、自然の理としてむしろ遠ざけず受け入れるべきと考えている。

亡骸に触れることは、第一に故人の尊厳を重視し、その状態や感染症等に十分留意することが出来れば、何も忌み嫌うことはない。

愛する人との別れ。成仏を祈るお題目を唱え、亡骸に優しく触れて霊山浄土へ送ることは、家族にも故人にもかけがえない素敵な思ひ出となるに違いない。

### 一口メモ

あるご信者のお話です。涼しい風が吹いていたので、寝る前窓を開けてそのまま閉め忘れ、朝になって驚いたそうです。物騒なことですが、本人は妙見様のお陰だと言われます。但し妙見様はガードマンではありません。妙見様に丸投げではなく、自身の努力があつてこそご守護がいただけるものです。先ずは自分で注意することを忘れずに。

### 《法華経に学ぶ現代》

純智庵

#### 此の子

亡者とは

正しい意味は 死んだ人

#### 慇むべし

ところが今の世の中にや

#### 毒に中られて

生きた亡者がうようよしてる

#### 心みな

毒に心を破られて

#### 顛倒せり

ものの見方が逆さまだ

#### 『如来寿量品第十六』

そこに気づかぬ人生は 憐れむべしというべきか

### 仏教まめ辞典

#### 塔婆

回向や施餓鬼法要などで故人の戒名などを書いて立てます。サンスタリット語のストウパーを音写した語で、卒塔婆

また単に塔とも訳されます。大きなお寺にそびえ立つ五重塔も起源は同じで、仏が亡くなられた時、その遺骨を納めたお墓がもたになっていきます。原型は土まんじゅうのような形に土を大きく盛り上げたものでしたが、その土台部分が時代とともに立派になり、やがて石で作られた塔や、三重あるいは五重の塔などに変化していきました。

五重塔も法事の塔婆も仏への供養のためのものです。法事で塔婆を立てるのは、仏への供養の功德が故人のためになるよう願うためのものです。御題目を書いた下に「為○○信士追善菩提」などと書きますが、塔婆供養の功德が故人○○信士のためとなるよう願うという事を表しています。